



報告書No. 20180418152

平成30年4月18日

骨材のアルカリシリカ反応性試験報告書

矢橋工業株式会社 御中

採取場所 大垣市赤坂町地内
 採取者名 矢橋工業株式会社
 採取年月日 平成30年4月5日
 骨材名称 砕砂(細骨材)
 試験実施日 平成30年4月16日
 試験方法 JIS A 1145 : 2017 骨材のアルカリシリカ反応性試験方法 (化学法)

採取場所 大垣市赤坂町地内
 採取者名 矢橋工業株式会社
 採取年月日 平成30年4月5日
 骨材名称 砕砂(細骨材)

平成30年4月17日

JIS A 1145 : 2017 骨材のアルカリシリカ反応性試験方法 (化学法)

1. アルカリ濃度減少量 (Rc) : 塩酸(HCl)滴定法
2. 溶解シリカ量 (Sc) : 吸光度法

報告書No. 20180418152

試験結果

試験量 25.00 (g) 反応条件 : 80℃ 24時間

繰返し	アルカリ濃度減少量		溶解シリカ量	
	Rc (mg/L)	V2 (mL)	Rc	希釈n
1	20	19.32	19	2
2	20	19.22	24	2
3	20	19.20	25	2
平均値	—	—	23	—

Vs (mL) : 19.70 F : 1.000

$$Rc = \frac{20 \times 0.05 \times F}{V_1} \times (V_3 - V_2) \times 1000$$

ここに、
 V1 : 分取量 (mL)
 V2 : 滴定量 (0.05mol/L 塩酸)
 V3 : 空試験滴定量 (0.05mol/L 塩酸)
 F : 0.05mol/L 塩酸ブアクター

$$Sc = 20 \times n \times A \times \frac{1}{28.09}$$

ここに、 A : 検量線から求めたけい素量 (Si mg/L)

アルカリシリカ反応性の判定

—判定基準—

- 無害 : a) Scが10mmol/L 以上で、Rcが700mmol/L 未満の範囲で ScがRc未満となる場合。
 b) Scが10mmol/L 未満で、Rcが700mmol/L 未満の場合。
- 無害でない : Scが10mmol/L 以上で、Rcが700mmol/L 未満の範囲で ScがRc以上となる場合。
- 判定しない : Rcが700mmol/L 以上の場合。

(注) 採取場所、採取者名、採取年月日、骨材名称は、ご依頼者の申し出により記入しました。

建設技第202号
 岐阜県美濃市橋本寺46番地の7
 岐阜県生コンクリート工業組合
 中濃試験場
 Tel (0575) 381292
 Fax (0575) 351248
 承認署名者 武井 薫
 場長

ご依頼のありました骨材の試験結果を以下のとおり報告致します。

受付年月日	平成30年4月9日
識別番号	180409A151
骨材名称	砕砂(細骨材)
試験項目	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (化学法)
顧客名称(住所)	矢橋工業株式会社 (岐阜県大垣市南市橋町1753)

原本と相違ないことを証明する。
 岐阜県生コンクリート工業組合
 中濃試験場 場長

(注) 本報告書は、試験場に持ち込まれた本書中に記載の試料についてのみに有効です。
 向、岐阜県生コンクリート工業組合中濃試験場の文書による承認なしでは、完全な複製を除き、報告書の一部のみを複製する事を禁じます。



報告書No. 20180423152

平成30年4月23日

骨材のアルカリシリカ反応性試験報告書

マルアイ石灰工業株式会社 御中

建設部 技第202号
岐阜県美濃市極楽寺464番地の7
岐阜県生コンクリート工業組合
中濃試験センター 試験場
Tel (0575) 331-2292
Fax (0575) 35-1248
承認署名者 齋場長 武井 薫

ご依頼のありました骨材の試験結果を以下のとおり報告致します。

受付年月日	平成30年4月6日
識別番号	180406A152
骨材名称	砕石 1505
試験項目	骨材のアルカリシリカ反応性試験 (化学法)
顧客名称 (住所)	マルアイ石灰工業株式会社 (岐阜県大垣市赤坂町3354番地)



原本と相違のないことを証明する。

岐阜県生コンクリート工業組合
中濃試験センター 試験場長

(注) 本報告書は、試験場に持ち込まれた本書中に記載の試料についてののみ有効です。
尚、岐阜県生コンクリート工業組合中濃試験センターの文書による承認なしでは、完全な複製を除き、報告書の一部のみを複製する事を禁じます。

報告書No. 20180423152

採取場所 岐阜県大垣市屋敷地内
採取者名 マルアイ石灰工業株式会社
採取年月日 平成30年4月5日
骨材名称 砕石 1505
試験実施日 平成30年4月19日 ~ 平成30年4月20日
試験方法 JIS A 1145 : 2017 骨材のアルカリシリカ反応性試験方法 (化学法)

1. アルカリ濃度減少量 (Rc) : 塩酸(Hcl)滴定法
2. 溶解シリカ量 (Sc) : 吸光度法

試験結果

試料量 25.00 (g)		反応条件 : 80℃ 24時間			
繰返し	アルカリ濃度減少量	溶解シリカ量			
	Rc (mmol/L)	Rc	希釈 n	A (mg/L)	Sc
1	V1 (mL)	V2 (mL)	2	0.432	1
2	20	19.30	2	0.351	0
3	20	19.30	2	0.339	0
平均値	—	—	21	—	0
V3 (ml) : 19.70		F : 1.000			

$$Rc = \frac{20 \times 0.05 \times F}{V1} \times (V3 - V2) \times 1000$$

ここに、
V1 : 分取量 (mL)
V2 : 滴定量 (0.05mol/L 塩酸)
V3 : 空試験滴定量 (0.05mol/L 塩酸)
F : 0.05mol/L 塩酸ブランク

$$Sc = 20 \times n \times A \times \frac{1}{28.09}$$

ここに、A : 検量線から求めたけい素量 (Si mg/L)

アルカリシリカ反応性の判定

無 害

- 判定基準 —
無 害 : a) Scが10mmol/L 以上で、Rcが700mmol/L 未満の範囲で ScがRc未満となる場合。
b) Scが10mmol/L 未満で、Rcが700mmol/L 未満の場合。
無 害でない : Scが10mmol/L 以上で、Rcが700mmol/L 未満の範囲で ScがRc以上となる場合。

判定しない : Rcが700mmol/L 以上の場合。

(注) 採取場所、採取者名、採取年月日、骨材名称は、ご依頼者の申し出により記入しました。